

東海市立明倫小学校 住所東海市荒尾町土取1の1 電話番号052-603-2011 児童224名 校長名鈴木 悟志 12学級（特支4）			○ 教育目標 校訓「夢・汗・心」を柱として、「夢にあふれた やさしい心と さわやかな汗」を目指して、「知・徳・体」の調和のとれた児童を育成する。 ○ 地域の特徴 市内で一番児童数の少ない小規模校である。校内及び近隣には緑が多く、自然豊かな環境に恵まれている。市街地調整区域には一戸建て住宅が増えているが、団地・社宅等では子育て世代の世帯が少なくなっている。 ◎…10％以上贈 ○…5％以上の増 △…5％以上の減			
中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和7年1月21日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)
知	・課題解決のために、児童同士で話し合ったり、ICTを活用したりしながら、自分の考えを表現し、互いに伝え合うことで学びを深める授業づくりを実践する。 ・土台となる基礎学力の向上を図る。	○授業に関する項目 児童5「授業の内容は分かりやすい」 教師4「伝え合う活動を重視し、分かる授業を実践している」 教師11「子どもは、授業の内容を理解している」 保護者6「学校（担任・教科担任）は分かりやすい授業をしている」 ○基礎学力向上に関する項目 児童6「授業の最後に振り返りをする事で、授業で学んだことが身についてきている」 教師7「毎時の授業における振り返りの実践によって、基礎学力定着の成果を上げている」 保護者13「家庭学習の習慣を身に付けさせている」	○分かりやすい授業について 児童 95.1％ → 90.5％ 教師 100.0％ → 94.7％ △ 教師 94.5％ → 94.7％ 保護者 80.4％ → 79.3％ ・自分の考えを他者に分かりやすく説明する文章化を通して、自身の理解度がより明確になった。 ・他者の考えの観点を知ること、思考の広がりや深まりが見られた。 ○基礎学力向上の取組について 児童 74.2％ → 71.6％ 教師 86.3％ → 94.7％ ○ 保護者 76.5％ → 75.4％ ・本時の学びのポイントを最後に押さえる意識が定着した。 ・児童が自分の学びの成果と課題をつかみやすい。	・思考の広がりや深まりを実現できる対話的な学びについて、授業研究を続けていく。 ・児童の文章読解力や自分の考えを論理的に組み立てる力を高めるために、授業の課題設定や教師の発問の工夫をしていく。 ・児童の主体的な学びが行われるように、児童自身が自分の課題を設定し、手だてを探りながら他者と協力して解決に辿り着くという探究的な学びの形を取り入れていく。 ・適切な課題に基づいた家庭学習を通じて、学びの土台となる基礎学力の定着を図る。	・伝え合いながら手だてを探る活動は、大変すばらしい実践であるが、このことによって児童の「分かりやすい授業」に対する割合が下がっているのかもしれない。それでも、数値にとらわれず続けていくべきだと考える。 ・児童の数値については、学年間の差や傾向はあるのだろうか。そこが知りたい。	・教務主任や現職教育主任を中心に、児童の主体的な学びの実現に向け、探究と対話を中心に据えた学習形態を推進する。 ・教務主任が中心となり、各教師が探究的な学びの具体像をつかみやすくなるような研修や先行実践を計画する。 ・各担任が児童に対し、自ら適切な課題を設定できる力を育む指導・支援を行う。 ・各担任が、児童個々に応じた家庭学習の課題設定をしたり、児童自身が課題を設定したりできるような在り方を探る。
徳	・明るいあいさつ等、人とつながる行いを大切にするとともに、自他の命を大切にし、思いやりをもって行動しようとする心豊かな児童の育成に努める。	○あいさつに関する項目 児童16「友達や先生、地域の人にあいさつをしている」 教師14「家族・地域の人にあいさつすることを指導している」 地域7「本校の子どもたちは、地域であいさつがよくできている」 ○優しさ・思いやりの項目 児童8「困ったことがあったとき、相談したい先生がいる」 児童13「他の人をいやな気持ちにさせないようにしている」 児童14「困っている友達がいたら、助けている」 教師20「いじめ防止に努め、日頃から子どもの変化（変容ぶり）を見逃さないようにしている」 保護者11「明倫小学校子どものいじめ防止基本方針があることを知っている」	○あいさつについて 児童 88.1％ → 86.3％ 教師 100.0％ → 94.7％ △ 地域 77.2％ → 72.2％ △ ・数値は下がったが、指導内容を具体的にしたことにより、児童の意欲は前向きになった。 ○いじめに関する項目 児童 62.4％ → 65.2％ 児童 95.0％ → 96.9％ 児童 92.1％ → 91.6％ 教師 100.0％ → 100.0％ 保護者 74.5％ → 77.7％ ・SCやSSWとの連携強化、校内の情報交換や対策協議は、より充実してきている。 ・全教職員が全児童の状況を把握し、対応できる体制が強化された。	・引き続き、挨拶や感謝の意を表す具体的な言葉や場面の指導や情操教育に取り組む。 ・教師や保護者など、周りの大人があるべき姿を見せていく。 ・担任、養護教諭、SC、SSWなど児童が気軽に相談できる体制づくりと時間の確保を、より充実させる。 ・情報交換会議や対策会議を、率直な考えや思いを出せる場とする。 ・年2回のいじめアンケートを始め、日頃から児童の人間関係や言動を注意深く観察し、組織的に対応する。 ・SSWを介して、積極的に専門性の高い外部機関と連携していく。	・教師と地域の数値低下は連動していると思う。教師の指導は100％であることが理想である。 ・学校外との連携については、どのような機関とどのような連携をとっているのか。それが見えてこない。 ・養護教諭の存在はとても大切であると思う。登下校の見守り活動をして気付いたことは、養護教諭にもできるだけ伝えるようにしている。担任には、時間的になかなか会って伝えにくい。また、女子のことだと、子どもの気持ちを考えると男性の担任には伝えにくい。	・全教師が、良好な人間関係を築く基本として、挨拶や感謝の意を示す表現について、言葉や振る舞い方を丁寧に指導する。 ・児童自身が挨拶をされたり、感謝の言葉をかけられたりする場面を、教師が意図的に設けることにより、児童に心地よさを味わわせる。 ・担任、養護教諭、生徒指導主任、SC、SSW、市こども課、市社会福祉協議会などとの連携を一層強化し、適切な見立てや分析に基づいた対応を、全校体制で行えるようにする。
体	・汗をかくことを惜しまず、進んで体を鍛える児童を育てる。	○外遊びに関する項目 児童18「放課は、外で元気よく遊んでいる」 ○食育に関する項目 児童22「栄養バランスを考えて、好き嫌いなく何でも食べている」 教師29「給食の時間や授業で、食育を意識した指導をしている」 保護者16「学校が取り組む食育に関心がある」	○外遊びについて 児童 62.4％ → 52.6％ △ ・今年度の猛暑により、熱中症対策で外遊びや体育的活動を制限した時期が長くなってしまった。 ・秋以降の体育的行事や業間体育を活発化したことで、かろうじてこの数値となった。 ○健康な体づくりのための、食への関心について 児童 78.2％ → 69.5％ △ 教師 100.0％ → 100.0％ 保護者 86.3％ → 75.4％ △ ・栄養教諭や養護教諭を中心とした地道な取組を継続し、児童の関心や実践意欲を高めている。 ・数値の低下に関して、HPや学校・学年だよりによる啓発を充実させる必要がある。	・体育授業や体育的行事を、有効的に児童の体力・運動能力の向上につなげる。 ・児童会を中心としたペア遊びや運動週間の取組を継続する。 ・体力・運動能力の向上に関する教師の研修を行う。 ・本校の「食に関する指導の全体計画」の下、各教科や領域、行事などにおいて、食育の取組を充実させ、児童の意識を高めることから、家庭の実践につなげていく。	・地域の公園も、安全対策のためなのか、樹木が伐採されて木陰が一切なくなった。初夏から秋にかけては、暑すぎて外遊びはさせられない。 ・ようやく涼しくなっても、日没が早いので、外遊びができる時間はほとんどない。 ・体力や運動能力が落ちるのは、必然的な流れ。 ・体を動かしてエネルギーを発散することは、子どもにとって大切なこと。 ・業間体育等の効果的な取組が、今後一層重要になると思われる。 ・食事についてのデータは分かったが、睡眠に関してはどうなのか。健康面では、食と睡眠は大切な要素であり、ぜひ睡眠にも着目してデータをとったり、分析したりしてほしい。	・教務主任や体育主任を中心に、体育科の単元の入替えなど、柔軟な対応によって、できるだけ年間を通じての児童の運動量が確保できるようにする。 ・数年後の体育館冷房設置を踏まえ、体育主任を中心に、体育科の授業や体育的行事の計画について、発展的な見直しを行う。 ・栄養教諭を中心とした食育実践の推進を継続するとともに、養護教諭を中心とした睡眠に関する保健指導やHP、たよりなどの啓発活動を進めていく。
地域連携	・学校支援協議会と連携し、家庭・地域との絆を強化する。 ・地域の方々に学校教育に参画していただき、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで児童を育てるとともに、開かれた学校づくりを進める。	○学校支援協議会に関する項目 教師26「学校支援協議会の組織や活動について理解している」 地域10「学習支援や花壇整備等、学校支援協議会が活動していることを知っている」 ○地域との連携に関する項目 教師19「子どもたちに地域の行事やボランティア活動に参加するよう指導している」 保護者19「学校からの協力依頼があれば、できるだけ協力をしたい」 地域6「学校は、地域の活動や行事によく協力している」	○学校支援協議会の活動を理解 教師 83.3％ → 73.6％ △ 地域 84.1％ → 64.8％ △ ・コロナ明けの新しい活動の形が定着してきたが、広報活動が不十分であった。 ○ボランティア活動への参加 教師 44.4％ → 79.0％ ◎ 保護者 72.5％ → 74.6％ 地域 75.0％ → 72.2％ ・さまざまな機会を捉え、児童に人のつながりの大切さが実感できる経験を積ませている。	・HPやeメッセージなどのオンライン機能の活用について、一層の充実を図り、広報活動につなげる。 ・人的ネットワークを拡大、強化するべく、これまでのつながりを頼りながら、新たな人に積極的に声を掛けて、学校教育活動に関わってくださる人を増やしていく。 ・探究的な学びを通して、人とつながることで目標が達成される経験を児童に積ませる。	・地域の方を始めとする「校外資源」の活用が不可欠になっている。地域との連携をさらに深めた学校づくりを進めていってもらえるように期待している。 ・一部地域（特に学校の北側）で過疎化が進んでおり、地域連携ができない状態になっている。また、防犯及び防災上の観点からも機能していない状況があり、有事の際にとても心配である。	・教頭を中心に、HPのブログコーナー（明倫Today!!）やeメッセージの活用により、広報活動を充実させる。 ・教頭を中心に、コミュニティースクール立ち上げを踏まえ、地域の学校運営への関わりの在り方など、協働体制の再構築に向けて、地域と話し合いを進めていく。 ・各担任が日頃の学習活動などを通して、地域との関わりの大切さについて、児童に伝えていく。

